

3. 発生予察情報の発表状況

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
予報第1号	4月4日	早期水稲	イネミスヅウムシ ヒメビウカ 結葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 スクミリンゴガイ	並 並 やや少 並 少 やや多
		交類	さび病類 赤かび病 うどんこ病	やや少 やや多 やや多
		ばれいしょ	疫病 アブラムシ類	やや多 並
		きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 菌核病 斑点細菌病 ミナミキイロアザミウマ オンシツコナジラミ	やや多 並 並 やや少 やや少 並 やや少
		トマト	灰色かび病 疫病 オンシツコナジラミ	やや多 やや少 並
		いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや多 並 やや多 やや多
		キャベツ	コガネ類	並
		たまねぎ	白色疫病 べと病	やや多 やや多
		柑橘	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 並 並
予報第2号	5月1日	水稲	苗立枯病 ばか苗病 いもち病 イネミスヅウムシ ヒメビウカ 結葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 スクミリンゴガイ	並 やや多 並 早：並、 普：やや多 並 やや少 並 少 やや多
		小麦	赤かび病 アブラムシ類	やや多 並
		ばれいしょ	疫病 アブラムシ類 ジャガイモガ ニシユウキネシントウ	並 並 並 並
		きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病	並 並 やや少

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
(子報第2号)		きゅうり	菌核病 斑点細菌病 ミナキイアサミウマ オンシツコナジラミ	やや少 やや少 やや多 並
		メロン	べと病 つる枯病 うどんこ病 斑点細菌病 アブラムシ類	やや少 やや少 やや少 並 並
		すいか	つる枯病 炭そ病 アブラムシ類	やや少 やや少 並
		トマト	灰色かび病 疫病 オンシツコナジラミ	並 やや少 並
		柑橘	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンダニ チャノキイアサミウマ 訪花害虫	やや多 並 並 並 やや少 やや少
		なし	赤星病 黒斑病 黒星病	並 並 並
子報第3号	5月19日	柑橘	ヤノネカガラムシ	並 (防除適期の指示)
子報第4号	6月1日	水稲	葉いもち ばか苗病 紋枯病 イネミスヅウムシ ヒメトビウカ 綫葉枯病 ヤマクワロハガイ 萎縮病 センロウカ トビイロウカ コブノメイガ スクミリンゴガイ	並 並 並 やや多：注意報1号 並 並 並 やや少 並 並 並 並
		メロン	べと病 つる枯病 うどんこ病 斑点細菌病 アブラムシ類	並 並 並 並 並
		すいか	つる枯病 炭そ病 アブラムシ類	並 並 やや多
		いちご	うどんこ病 炭そ病 ハダニ類	並 並 並
		柑橘	そうか病 かいよう病	並 並

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
(予報第4号)		柑橘	黒点病 ヤノネカイラムシ ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 (予報3号) 並 やや少
		びわ	がんしゅ病 ナシヒメシクイ	並 並
		なし	黒斑病 黒星病	並 やや少
		茶	炭そ病 チャノコカクモンハマキ	並 やや少
予防第5号	7月5日	早期水稲	穂いもち 紋枯病 ヒメビウカ 結葉枯病 穂吸汁カメムシ類	並 並 並 並 並
		普通期水稲	葉いもち 紋枯病 白葉枯病 ヒメビウカ 結葉枯病 ヤマゴロヨコハ 萎縮病 ヒシロウカ トビイロウカ コブノメカ	並 並 やや少 並 並 並 やや少 並 並 並
		いちご (育苗床)	炭そ病 うどんこ病 ハダニ類	並 多 (注意報2号) 並
		柑橘	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 並 並 やや多
		びわ	がんしゅ病 ナシヒメシクイ	並 並
		なし	黒斑病 黒星病	並 やや少
茶	チャノコカクモンハマキ	やや少		
予報第6号	7月17日	水稲	コブノメカ ウカ類	防除時期の指示 〃
予報第7号	8月3日	水稲	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 結葉枯病 トビイロウカ コブノメカ 穂吸汁カメムシ類	並 やや多 並 並 並 並 並 並
		大豆	葉焼病 ハズメンヨウ ウハ類	並 やや多 やや多

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
(予報第7号)		いちご (育苗床)	うどんこ病 炭そ病 ハダニ類	やや多 並 並
		柑橘	かいよう病 黒点病 ヤノネカイラムシ ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ カメムシ類	並 並 (防除適期の指示) 並 並 並
		茶	炭そ病 チャノコカクモンハマキ チャノネリカ チャノミドリヒメヨコハ カンザワハダニ	やや少 やや少 やや多 やや多 やや少
予報第8号	8月25日	水稲	紋枯病 穂吸汁カメムシ類	やや多 やや多
		大豆	ハスモンヨトウ ウツハ類	やや多 やや多
予報第9号	9月4日	水稲	穂いもち 紋枯病 白菜枯病 もみ枯細菌病 トビイロウンカ コブノメイカ 穂吸汁カメムシ類	並 やや多 並 やや多 並 並 並 やや多
		大豆	葉焼病 べと病 ハスモンヨトウ ウツハ類 カメムシ類	やや多 並 やや多 やや多 やや多
		いちご (育苗床)	うどんこ病 炭そ病 ハダニ類 ハスモンヨトウ	やや多 並 並 やや多
		柑橘	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ カメムシ類	並 並 並 やや多 やや多
		茶	炭そ病 もち病 網もち病 チャノコカクモンハマキ チャノネリカ チャノミドリヒメヨコハ カンザワハダニ クワシロカイラムシ	並 やや少 やや少 やや少 やや多 並 やや少 やや多
予報第10号	9月12日	大豆	ハスモンヨトウ	並：防除時期指示
予報第11号	10月3日	水稲	トビイロウンカ	並：防除時期指示
		大豆	ハスモンヨトウ	やや多

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
(予報第11号)		大豆	カメムシ類	やや少
		ばれいしょ	疫病 アブラムシ類 ニジュウヤホシテントウ ジャガイモガ ヨウムシ類	並 並 並 並 やや多
		いちご	うどんこ病 ハダニ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ	やや多 並 並 並
		はくさい	アブラムシ類 コナガ ヨウムシ類	やや少 並 並
		キャベツ	黒斑点細菌病 黒腐病 アブラムシ類 コナガ モンシロチョウ ヨウムシ類	並 並 並 並 並 やや多
		にんじん	黒葉枯病 うどんこ病	やや多 並
		柑橘	青かび病 緑かび病 ミカンハダニ カメムシ類	並 並 やや多 やや多
予報第12号	11月 2日	麦類	黒穂病 斑葉病 シロビムシ類	並 並 やや多
		ばれいしょ	疫病 アブラムシ類 ニジュウヤホシテントウ ジャガイモガ ヨウムシ類	やや少 やや多 並 並 並
		いちご	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 並 並
		はくさい	べと病 黒斑病 アブラムシ類 コナガ ヨウムシ類	並 並 やや多 並 並
		キャベツ	黒斑細菌病 コナガ アブラムシ類 モンシロチョウ ヨウムシ類	並 並 並 並 並
		にんじん	黒葉枯病 うどんこ病	並 やや多

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
(予報第12号)		柑橘	ミカンハダニ クワゴマダラヒトリ	やや多 並
予報第13号	12月 4日	きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ オンシツコナジラミ	やや多 やや多 並 並 やや少 並
		トマト	疫病 葉かび病 灰色かび病 オンシツコナジラミ	やや少 やや多 並 並
		いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	やや多 並 やや多 並 並
		はくさい	白斑病 軟腐病 コナガ	並 並 並
		キャベツ	黒腐病 コナガ	並 並
		レタス	菌核病 斑点細菌病	並 並
		柑橘	ハダニ	やや多
予報第14号	12月 27日	きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ オンシツコナジラミ	やや多 並 並 並 やや少 並
		トマト	疫病 葉かび病 灰色かび病 オンシツコナジラミ	やや少 やや多 並 並
		いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 やや多 並
		はくさい	白斑病 コナガ	やや多 並
		キャベツ	コナガ	並
		レタス	菌核病 灰色かび病 斑点細菌病	並 並 並
		たまねぎ	白色疫病	並

種 類	発令月日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
予報第15号	平成2年 2月5日	きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 菌核病 アブラムシ類 ミミキイロアザミウマ オンシツコナジラミ	やや多 並 やや多 並 並 やや少 並
		トマト	疫病 葉かび病 灰色かび病 オンシツコナジラミ	やや少 やや多 並 やや多
		いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 並 やや多
		キャベツ	コナジラミ	並
		レタス	菌核病 灰色かび病 斑点細菌病	並 並 並
		たまねぎ	白色疫病 べと病	並 並
予報第16号	2月27日	早期水稲	ばか苗病	並
		麦類	うどんこ病	やや多
		きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 菌核病 アブラムシ類 ミミキイロアザミウマ オンシツコナジラミ	やや多 並 やや多 並 やや少 やや少 並
		トマト	疫病 灰色かび病 オンシツコナジラミ	並 やや多 並
		いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 やや多 並 やや多
		キャベツ	コナジラミ	並
		たまねぎ	白色疫病 べと病	多(注意報第4号) 並
		柑橘	ミカンハダニ	やや多
茶	カンザワハダニ	並		

種 類	発令月日	対象作物	対象病害虫	情 報 の 内 容
注意報第1号	6月19日	水稻	イネミスヅク4ツ	<p>1. 発生地域：普通期早植地帯</p> <p>2. 発生程度：やや多</p> <p>3. 根拠：            ① 4月27日県予察園場で食害株を            確認。5月3半旬の株当り寄生成            虫数は0.12頭、食害株率98%、            被害度86であった。            ② 5月2～4半旬の巡回調査の結果、            県平均の発生圃場率は61%、株            当りの寄生成虫数は0.16頭と高            く、一部に株当り1頭以上の多            発圃場も見られた。            ③ 前年の未発生地区においても発            生が確認されており、発生地域            は拡大している。</p>
注意報第2号	7月3日	いちご	うどんこ病	<p>1. 発生地域：県下全域</p> <p>2. 発生時期：7月上旬以降</p> <p>3. 発生程度：多</p> <p>4. 根拠：6月下旬の巡回調査の結            果、県下の発生圃場率は100%、            県平均の発病株率は62%で、5            月下旬：(17%)、6月上旬：(41%)            より増加し多発した。</p>
注意報第3号	9月12日	かんきつ かき	カメムシ類	<p>1. 発生地域：県下全域</p> <p>2. 発生時期：9月中旬以降</p> <p>3. 発生程度：多</p> <p>4. 根拠：            ① 8月下旬以降、予察灯への飛来            が増加し、9月2半旬には多量            の誘殺が認められた。            ② 9月3半旬の早生温州園場にお            ける発生圃場率は29%であるが            一部多発圃場がみられ、被害            も見られる。            ③ 8月中旬のヒノキ樹調査の結果            、中果の熟期が遅く、寄生成虫数            が多かった。</p>
注意報第4号	平2年 2月27日	たまねぎ	白色腐病	<p>1. 発生地域：県央、県南部</p> <p>2. 発生時期：2月中旬以降</p> <p>3. 発生程度：多</p> <p>4. 根拠：① 2月下旬の巡回調査の            結果、県下の発生圃場率は69%、            平均発病株率は15%と高い。            ② 気象予報によると3月の気温は            平年並、日照時間は少なく、降水            は多い見込みである。</p>

カキクダアザミウマ (Ponticulothrips diospyrosi Haga et Okajima) の発について

1. 発生作物：かき
2. 初確認年月日：平成元年5月24日
3. 発生確認市町村  
佐世保市、島原市、大村市、高来町、  
有明町、瑞穂町、北有馬町、西有家町
4. 診断、同定  
平成元年5月24日、北有馬町より診断依頼されたかき葉に寄生している害虫を長崎県樹試験場並びに病害虫防除所で診断の結果、本県では発生が認められる発生状況と本種と同定された。
5. 現地における発生状況  
1) 平成元年5月25日、現地調査を行った結果、北有馬町のかき園6園中4園で、また、同町内の散在樹21本中11本で被害葉を確認した。また、同日さき原市と西有家町のかき園及び散在樹で被害葉を確認した。  
2) さき原市に、5月下旬の調査で、上記の市町で発生を確認した。
6. 他県における発生状況  
昭和三十九年に岡山県で初めて発生し、その後、全国に分布拡大した。九州においては、昭和五十九年福岡県で初発生し、その後、九州各県に分布拡大しており、本県への侵入が警戒されていた。
7. 形態  
1) 成虫：体長2.8～3.0mm(雌)で、体は脚、触角を含め黒色で光沢がある。  
2) 卵：長さ0.4mm程度で円筒形をしており、淡い黄色を帯びた乳白色である。  
3) 幼虫：体長0.5～1.8mmで、胴部は淡橙黄色、頭部、触角、脚などは黒色である。  
4) 蛹：半透明で、全体が乳橙色を帯び、歩行可能である。
8. 発生生態  
本種は年1回発生が主体である。越冬は成虫態でかき、マツ、ヒノキなど樹皮のすきまにもぐり、集団で行う。越冬成虫は4月に越冬場所を脱出し、かきに移動し、展開後2～3日以内の若葉に寄生する。寄生された葉は、葉縁が主脈に向かって縦に巻き込み、幼虫はふ化後葉内に産卵するとともに汁液を吸収するが、一部のものは果実に移動して加害する。老熟すると寄生部位で蛹になる。その後、順次新成虫は5月下旬頃より発生し、果実等へ移動し加害する。その後、順次越冬場所に移動し、7月中旬にはほぼ移動を終え、翌年4月まで越冬する。
9. 被害  
1) 葉：葉縁から主脈に向かって縦に巻き込んだ奇形葉になる。被害が激しい場合は、両側から巻き込み部分に、径0.5～1mmの丸い黄褐色の斑点ができ、その後、赤褐色～黒褐色に変色し、表面はかきょう状にコルク化して、周辺がわずかにぼんだり斑点になる。斑点は、葉の周辺で果実を一周する輪状に現れることが多い。チャノキイロアザミウマの被害も果実側面に輪状の傷ができるが本種による被害のようにはない。
- 2) 果実：幼果期の斑点が、その後、赤褐色～黒褐色に変色し、表面はかきょう状にコルク化して、周辺がわずかにぼんだり斑点になる。斑点は、葉の周辺で果実を一周する輪状に現れることが多い。チャノキイロアザミウマの被害も果実側面に輪状の傷ができるが本種による被害のようにはない。
10. 防除  
展葉期と開花期が重要な薬剤防除時期である。成虫はかきの枝幹の粗皮で越冬して、越冬期間で、冬季に粗皮を削り取り、集めて焼却するか土中に埋め込むか、越冬期間の密度を下げる。これを採取し焼却する。また、6月上旬～下旬にオルトラン水和剤1500倍で防除を行う。  
(防除対策については、暖地作物病害虫防除指針による)

ごぼうの菌核病（仮称）の発生について

- 1) 発生作物 　　　　　　　　ごぼう
- 2) 初確認年月日 　　　　　平成元年2月18日
- 3) 発生確認市町村 　　　　島原市
- 4) 診断、同定 　　　　　平成元年2月18日、島原市の農家より診断依頼されたごぼうの病容を長崎県総合農林試験場で診断の結果、本県では発生が確認されていない
- 5) 現地における発生状況 　　　　ごぼうに発生を認め、1農家の隣接する2ほ場(31a)で坪状に発生し、発生が多いほ場での発病株率は8%で、枯死株も見られた
- 6) 他県における発生状況 　　　　分県で発生が確認され、その後宮崎県でも発生した。
- 7) 病原菌 　　　　　　　　Sclerotinia属菌
- 8) 症状 　　　　　　　　　元の葉柄から水浸状に腐敗し、葉全体が枯死する。病斑部に白色のかびを後に灰黒色の菌核を形成する。
- 9) 発生生態 　　　　　　　ごぼうにおける発生生態の詳細は不明であるが、同時期に栽培される野菜類の菌核病と概ね同様の発生生態を示すものと推察される。
- 10) 防除対策
  - 耕種的防除法
    - ・前年発生したほ場では栽培を避ける。
    - ・収穫終了後、被害残査を除去する。
    - ・トンネル被覆内の湿度低下をはかる。
  - (薬剤防除については、登録薬剤がないため適用不可能)

茶輪斑病の発生について

- 1) 発生作物：茶
- 2) 初確認年月日：昭和63年10月11日
- 3) 発生状況 　　　　　　　昭和63年10月上旬、東彼杵町の農家ほ場並びに総合農林試験場東彼杵茶業支場内ほ場において、「やぶきた」に発生を認め、茶業支場で検鏡の結果、これは本県では未確認であった茶輪斑病であることが確認された。発生は最初局部的であったが、平成元年9月に県下の主要な栽培地帯を調査した結果、東彼杵町以外に松浦市志佐、世知原町でも発生を認めた。
- 4) 病原菌： Pestalotia longiseta
- 5) 症状 　　　　　　　　　葉では、摘採により生じた傷口からの発病がほとんどで、濃淡のある褐色の紋線が感染部位を中心に同心円状を生じる。病斑は、徐々に拡大し多数の小黒点(分生胞子層)を形成する。枝では、主に新梢の包葉、不完全葉の離脱部より感染し新梢枯死症を呈する場合と、摘採、剪枝により生じた傷口から直接発病する場合とがある。病斑は茶褐色で病斑内に小黒点を形成する。
- 6) 発生生態 　　　　　　　病斑上に形成された分生胞子が風雨とともに飛散して伝染する。病原菌の生育適温は25～28℃であり、32℃以上になると生育できない。病原菌は、樹上の葉や枝で越冬する。二、三番茶摘採時に高温の年は発病が多い。品種については、やぶきたで発生が多い。
- 7) 防除 　　　　　　　　　防除時期は、摘採、整枝直後及び新芽の生育期である。  
 薬剤は、ダコニール1000の700倍または銅・カスガマイシン水和剤1,000倍が有効である。

アスパラガス苗立枯病（新称）の発生について

1. 発生作物 : アスパラガス
2. 病名 : アスパラガス苗立枯病
3. 病原菌 : *Rhizoctonia solani* Kuhn  
培養型 : III A、菌糸融合群 : A G - 4
4. 初確認時期  
発病確認 : 平成元年3月28日  
菌の同定 : 平成2年1月31日
5. 発生場所  
北高来郡高来町、南高来郡千々石町
6. 診断、同定  
平成元年3月28日に北高農協より、また、4月18日に雲仙農協より  
各々診断依頼があり、病害虫防除所で調べた結果、いずれも上記病原菌に  
よる本病害であることが判明した。  
55回九州病害虫研究会（平成2年1月31日、宮崎市）において新病害  
として報告した。
7. 発生状況  
高来町、千々石町とも、共同育苗ほ場においてポット育苗された苗が、  
育苗期間中順次発病枯死し、立枯症状を呈した。品種は、高来町がウエル  
カム、千々石町がポールトム、ハイデル等であった。
8. 症状  
分蘖菌の接種により発病の推移を観察した結果、あらかじめ病原菌を土  
壌接種してアスパラガスを播種した場合は、高率に不発芽を生じた  
生育初期に接種した場合は、萌芽後数日しか経過してない茎では、最初  
茎頂部の萎凋と地際の褐変腐敗を生じた後に茎全体が枯死し、萌芽後  
な日数が経過した茎では、接種後1ヶ月以内に発病を認めなかった。
9. 病原菌の諸性質  
本病原菌は他の野菜類の苗立枯病菌の一種である *R. solani* と同一と  
考えられる。  
本菌をキュウリ、メロン、カボチャ、スイートコーンに接種した結果、  
キュウリ、メロンでは激しい発芽障害（芽の腐敗による不発芽）を生じ、  
カボチャでは軽い発芽障害を生じたが、スイートコーンは発病しなかつた  
本菌は比較的高温で生育し、生育適温は25～30℃の範囲にある。
10. 防除対策  
1) 育苗の土壌はあらかじめ消毒して用いる。消毒法は病害虫防除基準  
野菜・花卉共通事項3. 定植前土壌消毒の1)、3)、6)、7)を参照。  
2) 排水を良くし、過湿をさける。  
3) 病苗を本ほに持ち込まない。  
4) 生育期間中の薬剤防除技術は確立されていない。